

2025年1月31日

2025年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード：2053

ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>

お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部 総務課

目次

25.3 3Q 決算レビュー

◆ 連結業績

◇ 連結経営成績	5
◇ 営業利益の増減要因	6
◇ 連結財政状態	7
◆ 飼料セグメントの状況	
◇ 外部環境①	9
◇ 外部環境②	10
◇ 飼料セグメント実績 ①畜産飼料	11
◇ 飼料セグメント実績 ①畜産飼料 (続き)	12
◇ 飼料セグメント実績 ②水産飼料	13
◆ その他セグメントの状況	
◇ その他セグメント 実績	15

通期見通し

◇ 通期計画	17
--------	----

参考資料

◇ 株主還元	19
◇ 参考資料	20

25.3 3Q 決算レビュー

連結業績

- ◇ 売上高は、みらい飼料の連結除外、畜産飼料の平均売価下落により減収
- ◇ 営業利益は、畜産飼料の原料ポジション改善、その他セグメントの利益増加等により増益
- ◇ セグメント利益について、飼料セグメントは8ページ以降、その他セグメントは14ページ以降を参照
 なお調整額は、受取配当金の増加と投資有価証券売却益により改善

(単位：百万円)

	通期計画	24.3期 3Q	25.3期 3Q	前年同期比	計画進捗率
売上高	209,000	180,049	157,428	△ 22,621	75.3 %
飼料	—	169,121	144,687	△ 24,433	—
その他※1	—	10,928	12,741	1,812	—
営業利益	4,200	1,622	2,707	1,084	64.5 %
経常利益	4,600	2,084	3,128	1,043	68.0 %
セグメント利益※2	4,900	2,106	3,399	1,293	69.4 %
飼料	4,350	2,050	2,550	500	58.6 %
その他※1	900	425	918	493	102.1 %
調整額※3	△ 350	△ 370	△ 70	299	—
純利益	3,400	1,588	2,370	782	69.7 %
設備投資額	4,000	3,190	3,285	94	82.1 %
減価償却費	3,000	2,165	2,171	5	72.4 %

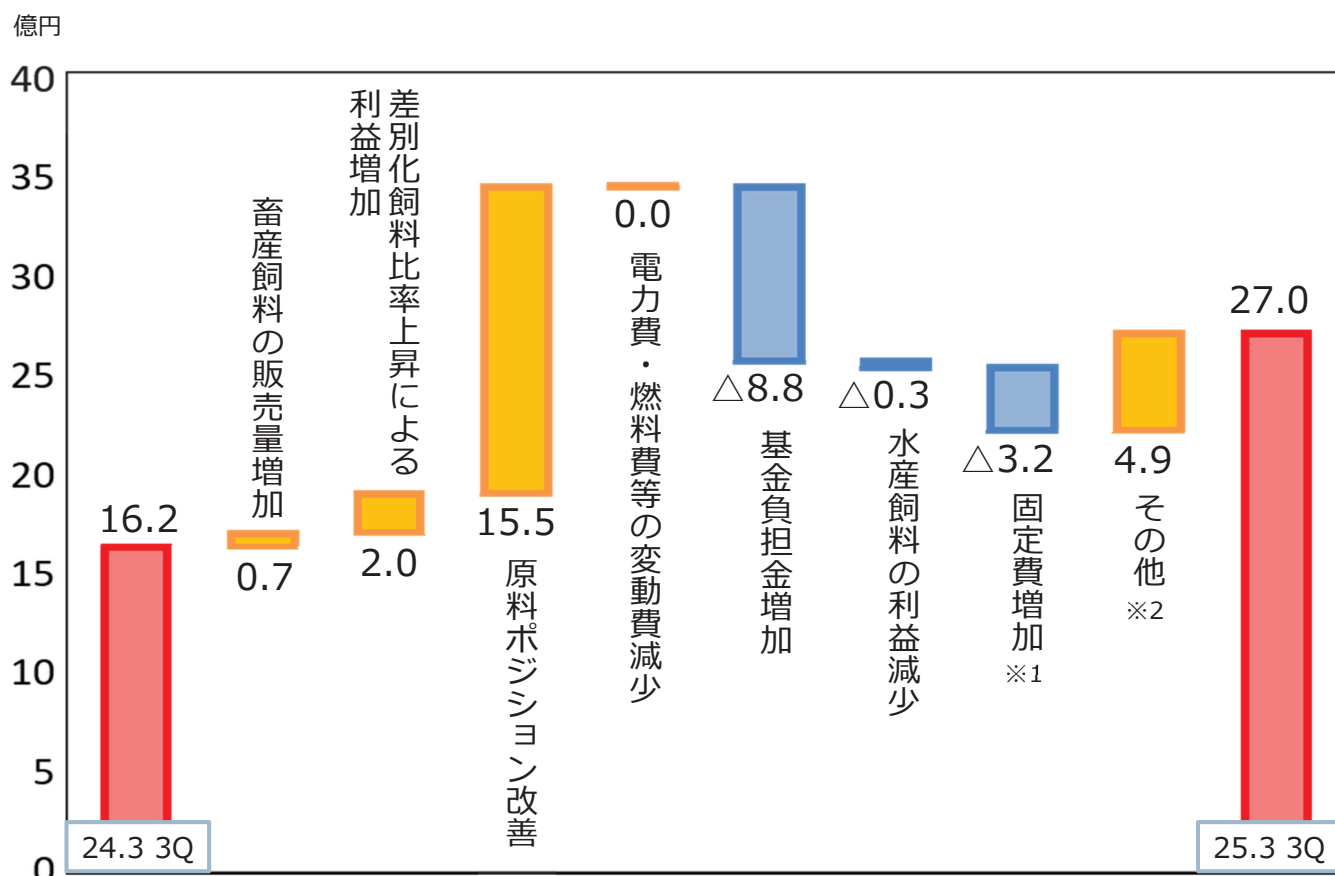
※1.その他セグメント：鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等

※2.セグメント利益：税金等調整前四半期純利益

※3.調整額：各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

5

営業利益の増減要因



※1.連結から除外した会社の固定費の影響を除く

※2.主にその他セグメントの増益

6

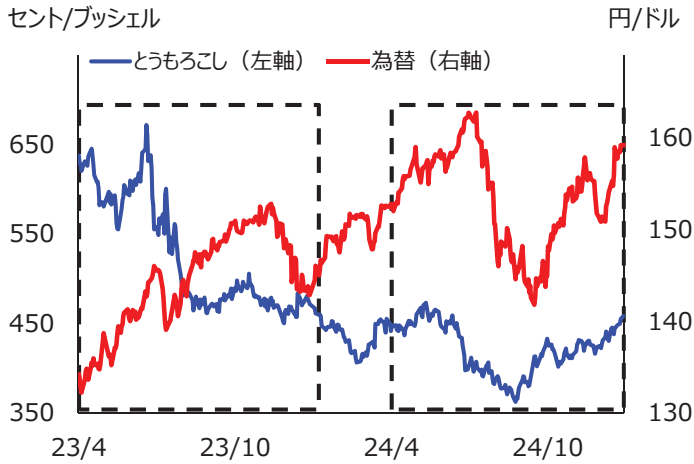
25.3期3Q 要約連結貸借対照表

(単位：億円)

流動資産	693 (△2)	負債	380 (△1)
現預金	76 (+46)	買掛金	201 (△11)
売上債権	456 (△3)	有利子負債	89 (+12)
たな卸資産	122 (△13)		
流動比率 258.1 % (+23.6pt)		純資産	665 (+8)
		株主資本	631 (+9)
		その他包括利益	32 (△0)
		非支配株主持分	0 (△0)
		自己資本比率 63.5% (+0.3pt)	
固定資産	352 (+9)		
有形	258 (+11)		
無形	3 (△0)		
投資その他	90 (△0)		
総資産	1,045 (+7)	負債・純資産	1,045 (+7)

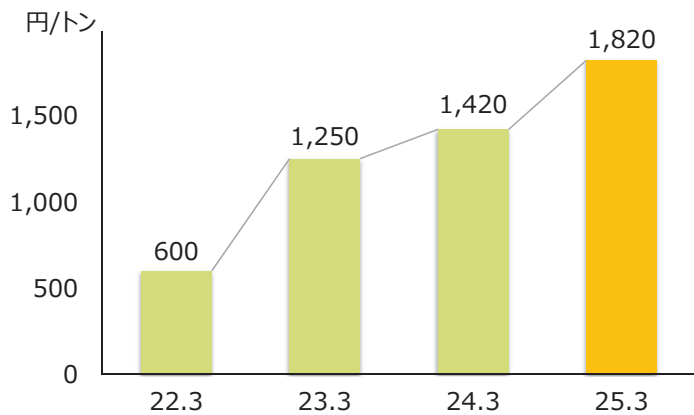
※ () 内の数値は、24.3期末との比較

飼料セグメントの状況



とうもろこしシカゴ相場と
為替相場の推移

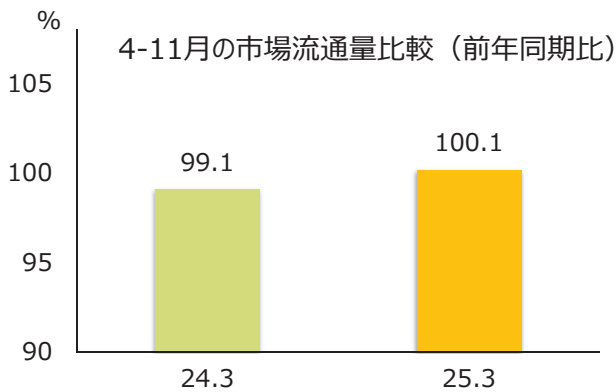
- ◇ とうもろこし相場は23年6月以降下落
24年夏には400セントを下回る価格を記録し、直近は450セントまで上昇
- ◇ 為替は円安が進行し、一時的に160円/ドルを記録。24年夏頃は急速な円高が進むも、秋以降再び円安が進行



基金負担金[※]の単価推移

- ◇ 高額な補てん金の交付が続いたことから財源が不足し、積立金は年々増加
- ◇ 25.3期は400円/トン増加

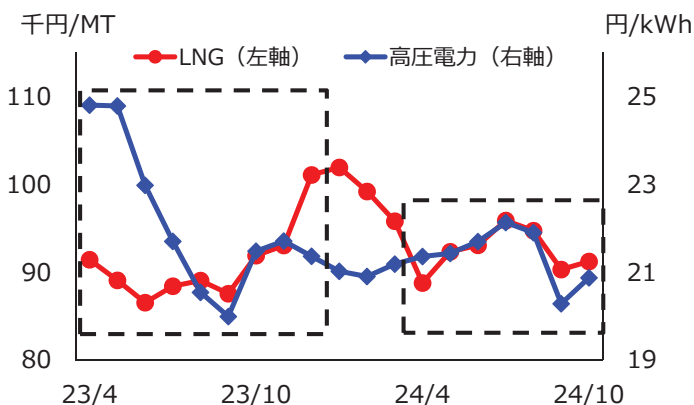
※ 基金負担金の詳細は20ページ参照



※ 農林水産省 飼料月報

畜産飼料の市場流通量





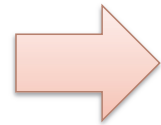

- ◇ 前年、鳥インフルエンザの影響で減少していた採卵鶏用飼料が回復
- ◇ 堅調な鶏肉需要を背景に、ブロイラー用飼料が好調に推移
- ◇ 養豚用飼料は前年の猛暑や疾病の影響に加え、今夏の猛暑の影響もあり、減少
- ◇ 養牛用飼料は横ばいで推移



エネルギー単価の推移



- ◇ LNGは24年4月に底を打ち、緩やかに上昇
- ◇ 高圧電力は23年6月以降下落したもののその後は緩やかに上昇。直近は再び下落

※ LNG：財務省貿易統計
 高圧電力：電力・ガス取引監視等委員会

項目	前年同期比	要因	計画との比較
販売量	 +0.7億	◇ 前年同期比100.8% ◇ プロイラー用飼料において、取組が評価され、販売量が回復 ◇ 採卵鶏用飼料では価格競争の激化により、販売量が減少	 通期計画 102.7%
差別化飼料比率	 +2.0億	◇ 差別化飼料比率46.5%に上昇 ○ プロイラー用飼料がけん引 ◇ 環境に配慮した製品の比率は上昇 ○ アミノ酸のバランスを加味して配合した採卵鶏用飼料が堅調に推移	 通期計画 47%
電力費・燃料費等の変動費	 +0.0億	◇ 電力費・燃料費は、酷暑乗り切り緊急支援により単価は低くなったが、運賃単価上昇により、変動費全体では横ばい	

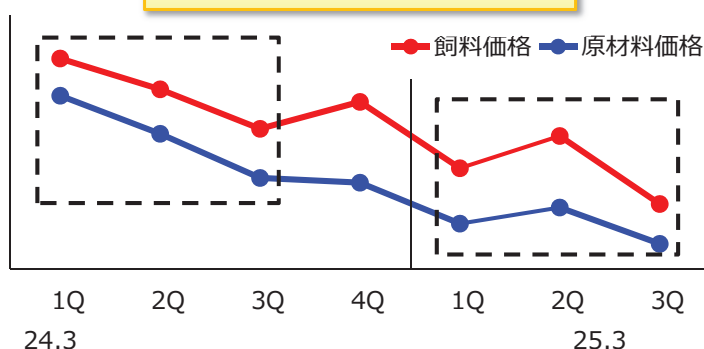
※ 計画との比較 ○：計画超過、△：計画どおり、×：計画未達

飼料セグメント 実績 ①畜産飼料（続き）

項目	前年同期比	要因	計画との比較
原料ポジション	 +15.5億	◇ 前年同期比で大幅に改善 ○ 上期は、原材料価格の変動幅と販売価格の改定幅にズレが生じたことで改善 ○ 3Qは、値下げ実施後の円安に加え、穀物相場の上昇も重なり悪化	


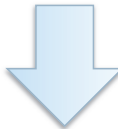

※ 計画との比較 ○：計画超過、△：計画どおり、×：計画未達

原料ポジションの状況

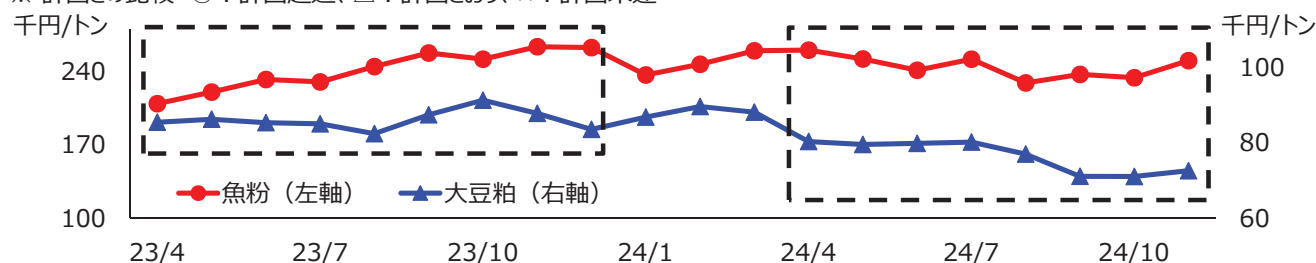


※原料ポジションとは

- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
- 飼料価格は、四半期毎に改定
- ◇ 原材料価格と飼料価格の変動幅にギャップやタイムラグが発生
- ⇒ 原料ポジションが改善・悪化

項目	前年同期比	要因	計画との比較
水産飼料の利益	 △0.3億	◇ 販売量は減少も、利益率は改善 ◇ 水産物販売価格が下落し、子会社は減益	○
販売量		◇ 前年同期比95.6% ◇ ウナギ用飼料が増加したものの、ハマチ用及びタイ用飼料が減少	× 通期計画 104.8%
利益率		◇ 主原料である魚粉の価格は上昇も、魚粉代替原料となる大豆粕等の価格は下落 ◇ 配合割合の工夫により、品質を維持しながらコストを抑制した新製品を投入	○

※ 計画との比較 ○：計画超過、△：計画どおり、×：計画未達



※ 財務省 貿易統計

その他セグメントの状況

項目	前年同期比	要因	計画との比較
その他セグメントの利益	↑ +4.9億	◇ 畜産用機器の好業績がけん引し、前年同期を大きく上回る	○
畜産用機器	↑	◇ 販売台数が前年同期を大きく上回り、大幅な増益	○
鶏卵販売	↑	◇ 主力の『ごまたまご』リニューアル等による販売強化が奏功し、販売量と利益が増加	○
肥料	↑	◇ 生産者の需要変化に対応した製品の投入等で販売量と利益が増加	×
保険代理業	↑	◇ 畜産保険の販売件数及び利益は前年同期を上回り、計画通り堅調に推移	○

※ 計画との比較 ○：計画超過、△：計画どおり、×：計画未達

通期見通し

- ◇ 飼料セグメント 4Qの原料ポジションは前年同期より悪化し、販売量は前年同期を下回る見込み
- ◇ その他セグメント 畜産用機器の好調な販売により、利益計画を大きく超過する見込み

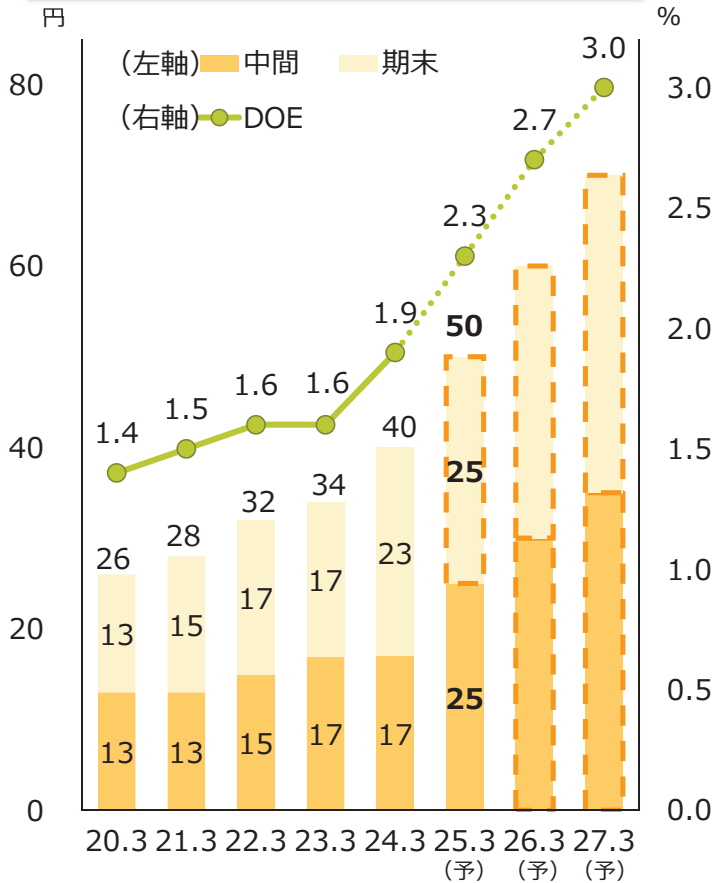
通期計画の達成を目指す

(単位：百万円)

	24.3期 実	25.3期 計	25.3期 3Q 実	計画進捗
売上高	234,227	209,000	157,428	75.3 %
飼料	218,889	—	144,687	—
その他	15,337	—	12,741	—
営業利益	3,932	4,200	2,707	64.5 %
経常利益	4,464	4,600	3,128	68.0 %
セグメント利益	4,487	4,900	3,399	69.4 %
飼料	4,301	4,350	2,550	58.6 %
その他	821	900	918	102.1 %
調整額	△ 635	△ 350	△ 70	—
当期純利益	3,327	3,400	2,370	69.7 %
設備投資額	4,098	4,000	3,285	82.1 %
減価償却費	2,935	3,000	2,171	72.4 %

参考資料

1株当たり配当金及びDOEの推移



還元方針

- ◇ 安定配当を維持向上
- ◇ 持続的な成長を支える成長投資や設備投資、内部留保とのバランスをとり純資産配当率（DOE）3%以上を目指す
- ◇ 株価水準や財務状況等を勘案して自己株式の取得をより機動的かつ積極的に実施

25.3期 配当金

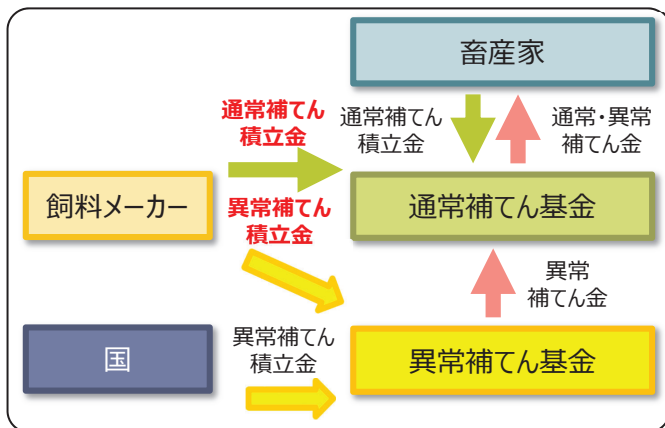
- ◇ 中間配当金は25円/株
- ◇ 期末配当金は25円/株を予定

株主優待

- ◇ QUOカード ※1
 (基準日3月末日、お届け6月下旬)
 - ◇ 富山県産コシヒカリ ※2
 (基準日9月末日、お届け11月中旬)
- ※1 額面は、保有株数・保有期間により変動
 ※2 重量は、保有株数により変動

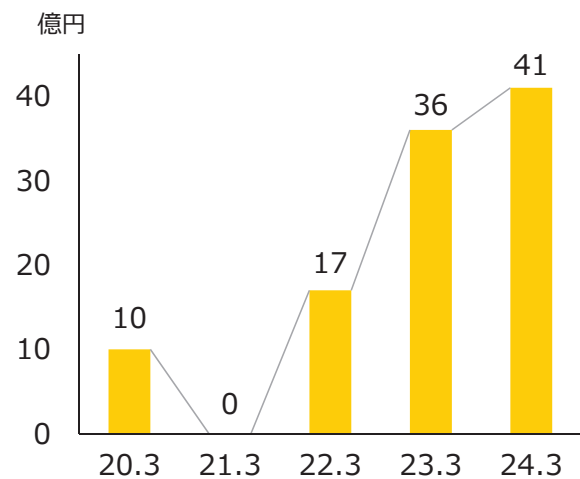
参考資料

基金負担金の仕組み



- 目的** ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和
- 内容** ◇ 畜産家・飼料メーカー・国が積立
 ◇ 一定のルールに基づき、畜産家へ補てん金を交付
 ◇ 積立金は財源により増減

④ 基金負担金の推移



差別化飼料

- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。